

第177回 全経簿記検定試験 上級 一 会計学一 模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題 1 [丸数字は予想配点、合計 50 点]

	正誤	理 由	
1.	×	前払費用のみ 1 年基準が適用され、未収収益は流動資産に属するものとする。 【企業会計原則注解注 16】	⑤
2.	○		⑤
3.	×	成果の確実性が認められるためには、工事収益総額、工事原価総額及び決算日における工事進捗度の 3 つが信頼性をもって見積られなければならない。 【工事契約に関する会計基準 9】	⑤
4.	×	再調達原価の方が把握しやすく、正味売却価額が再調達原価に歩調を合わせて動く想定される場合に、再調達原価によることができる。 【棚卸資産の評価に関する会計基準 10】	⑤
5.	○		⑤
		【税効果会計に係る会計基準注解注 2】	
6.	×	数理計算上の差異は、原則として各期の発生額について、平均残存勤務期間以内の一定の年数で按分した額を毎期費用処理する。 【退職給付に関する会計基準 24】	⑤
7.	×	当該判定は、資産又は資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することによって行う。 【固定資産の減損に係る会計基準二 2(1)】	⑤
8.	○		⑤
		【資産除去債務に関する会計基準 7】	
9.	○		⑤
		【ストック・オプション等に関する会計基準 4】	
10.	○		⑤
		【連結財務諸表に関する会計基準注 2】	

問題 2 [丸数字は予想配点、合計 26 点]

問 1		用語
	(a)	㊦ 段階取得
	(b)	㊦ 支配
	(c)	㊦ 時価
	(d)	㊦ 持分法

問 1		金額	
	(e)	㊦ 630	万円
	(f)	㊦ 660	万円

問 2

取得に相当する企業結合が行われた場合、支配を獲得したことにより、過去に所有していた投資の実態又は本質が変わったものとみなし、その時点でいったん投資が清算され、改めて投資を行ったと考えるため、企業結合時点での時価と個々の原価の合計額との差額を損益として処理する。㊦ 【企業結合に関する会計基準 89】

問題 3 [丸数字は予想配点、合計 24 点]

問 1

(計算過程)		
$25,000 + 4,400 - 3,800 = 25,600$		
当期商品仕入高(答)	25,600	万円

問 2

(計算過程)		
$-25,000 - (4,400 - 3,800) + (4,800 + 3,600 - 3,200 - 4,200) = -24,600$		
当期の仕入支出(答)	△24,600	万円

問 3

(計算過程)		
$30,500 - (8,300 + 7,300 - 2,500 - 3,700) + (2,200 - 0) = 23,300$		
当期の営業収入(答)	23,300	万円

問 4

X社の貸借対照表において、当期に売上債権が9,400万円増加している。これは、同額の営業収入の減少をもたらしており、売上債権の回収の遅れが資金繰りの悪化を招いていることを意味している。㊦